



## 足助町岩神のヒメハルゼミ調査

寺 下 正 清

### 1 はじめに

足助町岩神（若一神社境内）に棲息しているヒメハルゼミが、県の天然記念物に指定されたのは昭和45年4月21日のことである。指定当時は発生の時期・鳴き方に特徴があるのにもかかわらず、興味関心を持つ人は少なかった。

しかし、周辺の環境の変化に伴い年々減少しているのに気づき、絶滅を危惧する自然愛好家から保護の見直しの声が高まってきた。そこで、教育委員会の許可を得て、第一段階としてヒメハルゼミの抜け殻から生息状況を把握することにした。その結果の一部を報告する。

### 2 調査の方法

ゼミの抜け殻は、台風や大雨に出会わない限り、しばらくの間は枝葉に付着している。それを枝葉ごと採集するのである。夜間だと幼虫を踏み潰すおそれがあるので、早朝か夕方に採集することに

した。ヒメハルゼミは一般的には夕方に集団で共鳴することで知られているが、他の時間帯には共鳴しないのか確認するために、抜け殻を採集しながら終日調査する日を設けた。

### 3 平成16年度の調査結果

#### (1) 抜け殻調査

回	月日(曜)	調査時間帯	採集個体数	計
1	6月23日(水)	AM6:00~8:00	♂0 ♀0	0
2	6月25日(金)	AM6:00~8:00	♂5 ♀2	7
3	6月26日(土)	AM6:00~8:00	♂2 ♀3	5
4	6月30日(水)	PM5:00~9:00	♂9 ♀3	12
5	7月3日(土)	AM6:00~8:00	♂3 ♀1	4
6	7月4日(日)	AM9:00~PM7:00	♂1 ♀5	6
7	7月11日(日)	PM5:00~7:00	♂1 ♀2	3
8	7月18日(日)	AM6:00~8:00	♂1 ♀1	2
9	7月25日(日)	AM6:00~8:00	♂0 ♀0	0
総 計			♂22 ♀17	39

雌雄の抜け殻の総数は39固体であった。羽化する草木の種類には関係なく多種類の草木上で羽化していた。羽化の位置は最高で1.5m、最低で10cmであり、30cmから1mの範囲内が最も多く確認できた。

#### (2) 共鳴の確認

7月4日(日)は天候も良好で時間的ゆとりもあったので、終日、抜け殻さがしをしながらゼミの鳴き声に耳を澄ませることにした。アブラゼミやニイゼミの鳴き声はするのであるが、ヒメハルゼミは姿かたちも見えない。午後1時、第一声が聞こえたと思ったら突然樹上で共鳴が始まった。

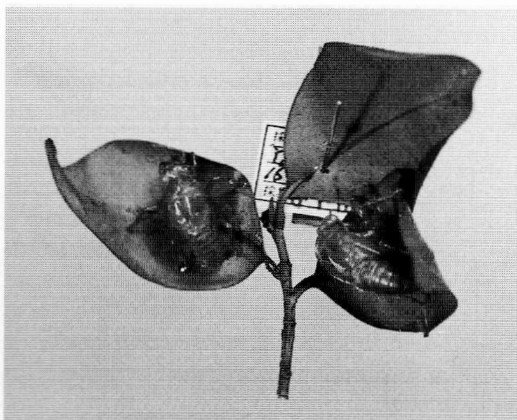


図1 葉裏に付着している抜け殻

時間にして40秒程であった。それ以後鳴き声は途絶えたが、二回目の共鳴が始まったのは午後3時であった。今度はやや長く約1分続いた。三回目の共鳴が始まったのは午後6時であった。時間を計ったような鳴き出しである。

午後6時からの鳴き声は約30分続いた。一般的に「ヒメハルゼミは夕方鳴く」と言われているのは、鳴く時間が長く人の耳に届きやすいからではないかと推測される。しかし、今回は1日のみの調査であるので次年度さらに確認する必要がある。

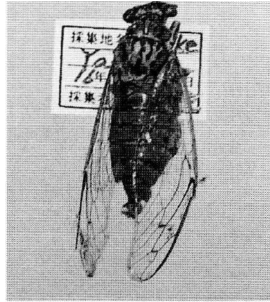


図2 足助病院の外灯に飛来したヒメハルゼミ

#### 4 おわりに

絶滅を危惧していた足助のヒメハルゼミを確認することはできたが、セミの習性として棲息地周辺の光量が増してきており減少の一途をたどっていることは推測できる。

確かに樹上に静止している成虫を確認することができなかった。わずかに足助病院の外灯に飛翔してきた雄1頭のみという寂しさであった。抜け殻調査は生態への影響が少ないので次年度も調査し、その動向を少しでも把握して地域住民の保護への意識を高めたいと願っている。

最後に、この調査に協力していただいた足助町教育委員会並びに標本を寄贈していただいた三津井 宏氏に感謝申し上げます。

#### 参考文献

- 1) 浜口哲一, 1995. セミのぬけがらの見分け方、昆虫と自然Vol. 30. No. 30. (ニュー・サイエンス社)
- 2) 全国学校ビオトープ・ネットワーク (編), 2003. シリーズしらべてまなぶ身近な生きもの② 土と林の生きものたち. (合同出版)
- 3) 加藤正世, 1964. 少年の観察と実験文庫 セミの研究. (岩崎書店)

## コワモンゴキブリを安城市で観察

小 鹿 登 美

筆者は、自宅のベランダにてコワモンゴキブリ *Periplaneta australasiae* (Fabricius) の若齢幼虫～老齢幼虫と思われる十数頭の個体を、栽培用プランターの下などで観察することができたので、記録として報告する。

《データ》2004年8月25日 安城市今本町

このコワモンゴキブリの分布は九州以南で、一部全国の都市や港湾部など暖房された場所にいるが、地域によっては本種の方がワモンゴキブリより優勢になっているといわれる。今回観察した場所はマンションのベランダで、一応屋外である。このまま野外でも越冬するのか、家屋内に入って

くるかはわからない。しかし、一般にたくましい生物の代名詞になっているゴキブリ類だが、気候の温暖化などの影響で、種によってはその分布に変化が出ているのかもしれない。

本種は前胸部に明瞭な斑紋があり、頭部にあるまだら状の斑紋や明るい赤褐色の翅が、チャバネ・クロ・ヤマト・ワモンゴキブリの幼虫とは明らかに異なっている。

# 本宿町から観察特記

松井直人

## 1. ミンミンゼミの鳴き声

1990年、97年と鳴き声を聞き、次は2004年かと注意していたところ、99年に鳴いて困惑した。更に01年、03年と聞いた。7年周期の寿命と決めつけるデータが鳴き声だけでは無理であるということだ。(三河の昆虫45号、47号関連)

- 2001年 8月14日
- 2003年 8月13日、8月19日、9月6日
- 2004年 8月20日

## 2. スズムシの飛翔

スズムシ雄は羽化後、早期に後翅が脱落する。したがって、前翅だけでどの様にして飛んだのかと、昆虫の飛翔も研究しておられる久留米大学の上宮博士から問い合わせがあった。他に灯火に飛来の報告、文献は知らないと言う。

たまたま、2004年8月26日に、前回(1979年9月3日)と同じ拙宅前の水銀街路灯に雄が飛来したので、当該標本を送った。立派に後翅のあるものであった。なお、スズムシに関する文献や随筆等の著作物を調べたところ、「岡崎市史資料編14 岡崎市の直翅類(杉坂美典氏)」に1980年9月5日大樹寺町の水銀灯に飛来の記述が見付かった。

スズムシの一生も近親婚をさけるために、高等動物と同じシステムがあるようだ。

## 3. 蛾屋の報告

「岡崎市本宿町の鱗翅類1500種(1998)」を完成させてからは、本格的な調査・収集は行なっていないが、拙宅前の水銀街路灯を、毎朝のラジオ体操時に見るだけで、すでに数十種をリストに追加しなければならない。注目すべき種だけを報告する。

- キマエコノハ 99.10.28 (No47既報)
- ヒメアケビコノハ 1♂ 99.11.12
- ウスイロキシタバ 1♀ 03.6.29 (池金町)
- フシキキシタバ 1♂ 03.6.19
- ヤマノモンキリガ 1♂ 00.10.22
- シロフクロケンモン 1♂ 03.6.9
- ヤヒコカラスヨトウ 1ex. 04.11.10
- マエモンキエダシャク 1♀ 99.6.2
- テングナミシャク 1♀ 99.11.7 (既報)
- 1♂ 03.11.8, 1♂ 03.11.16, 1♀ 03.11.20
- 1♂ 1♀, 03.11.21
- オオナミフユナミシャク 1♂ 02.1.17
- オビカギバ 1♀ 99.10.10
- モモイロシマメイガ 1♂, 99.8.25
- ミツシロモンノメイガ 1♂, 99.9.10
- ヒメクロイラガ 1♂ 1♀, 99.8.13
- ウラナミアカシジミ 1♀, 02.6.23

### ◇アキタクロナガオサムシを作手村で採集◇

アキタクロナガオサムシ (*Aptomopterus porrecticollis*) は、三河地方では山地に広く分布しているが、分布にむらがあって、いる場所といない場所とがある。筆者は作手村の山林で朽木を崩して、本種を採集したのでここに記録する。

標本：1♂ 1♀, 作手村鬼久保の山林, 2-V-2004, 大平採集。

# 愛知県宝飯郡小坂井町のハムシ類

山崎 隆 弘

東三河南部に位置する宝飯郡小坂井町は、豊橋市・豊川市・御津町に接し、東海道の交通の要所でもあり、鉄道や幹線道路が本町を貫通している。地域の大部分は市街地となっており、わずかな田畑と社寺林のほか、豊川放水路・佐奈川・走川・善光寺川などの河川と周辺部の草地があるにすぎない。本町のハムシ類については、過去に若干の調査を行っているが、今回あらためて調査を実施したので、その結果を含めて報告をしたいと思う。目録中の採集者は全て筆者である。

## ハムシ科 CHRYSOMELIDAE

### クビボソハムシ亜科 CRIOCERINAE

#### 1) アカクビボソハムシ

*Lema diversa* Baly, 1873.

小坂井町地内, 9-IX-1989, 1ex.; 若宮八幡社, 10-X-2003, 2exs. 秋季に得られている。

#### 2) ヤマイモハムシ

*Lema honorata* Baly, 1873

佐奈川堤, 6-V-2004, 1ex., 同地, 26-V-2004, 1ex., 同地, 25-X-2004, 1ex. ヤマノイモにいるこの地方の普通種であるが本町では多くない。春季のほか秋季でも得た。

#### 3) トホシクビボソハムシ



図1 住宅地の周辺部を流れる佐奈川の草地は、ハムシ類の格好の生息地となっている。

*Lema decempunctata* Gebler, 1830

小坂井町地内, 9-IX-1989, 1ex.; 佐奈川堤, 19-IV-2004, 9exs., 同地, 6-V-2004, 1ex. 佐奈川堤ではクコの葉上で多数の個体を観察している。[図2]

### ナガツツハムシ亜科 CLYTRINAE

#### 4) キイロナガツツハムシ

*Smalagdina nipponensis* (Chujo, 1951)

本町においては山崎 (1988) の記録がある。

### ツツハムシ亜科 CRYPTOCEPHALINAE

#### 5) クロボシツツハムシ

*Cryptocephalus signaticeps* Baly, 1873

小坂井町地内, 1-V-1977, 1ex. 本町においてはすでに山崎 (1988) と山崎・穂積 (1990) の記録がある。

### コブハムシ亜科 CHLAMISINAE

#### 6) ツバキコブハムシ

*Chlamisus lewisii* (Baly, 1873)

菟足神社, 10-X-2003, 12exs. 同神社では秋季に多数の個体を観察した。



図2 クコの葉上で交尾中のトホシクビボソハムシ

サルハムシ亜科 EUMOLPINAE

7) ヒメキバネサルハムシ

*Pagria signata* (Motschulsky, 1858)  
豊川放水路堤, 28-X-2004, 1ex.

8) イモサルハムシ

*Colasposoma dauricum* Mannerheim, 1849  
佐奈川堤, 3-VI-1977, 2exs., 同地, 26-V-2004, 9exs. 本町においてはすでに山崎 (1988) と山崎・穂積 (1990) の記録がある。佐奈川堤では多くの個体を観察した。[図3]

9) ドウガネサルハムシ

*Scelodonta lewisii* Baly, 1874  
小坂井町地内, 8-V-1977, 2exs.; 若宮八幡社, 10-X-2003, 1ex.; 佐奈川堤, 10-IV-2004, 1ex., 同地, 6-V-2004, 1ex., 同地, 26-V-2004, 5exs., 同地, 24-X-2004, 10exs., 同地, 8-XI-2004, 4exs.; 東漸寺の森, 22-XI-2004, 1ex. 本町においてはすでに山崎 (1988) と山崎・穂積 (1990) の記録がある。佐奈川堤では多くの個体数を観察した。

10) マダラアラゲサルハムシ

*Domotina fasciculata* Baly, 1874  
本町においては山崎 (1988) の記録がある。

11) アカガネサルハムシ

*Acrothinium gaschkevitchii gaschkevitchii* (Motschulsky, 1860)  
本町においては山崎 (1988) の記録がある。

ハムシ亜科 CHRYSOMELINAE

12) ダイコンハムシ

*Phaedon brassicae* Baly, 1874  
佐奈川堤, 10-IV-2004, 13exs., 同地, 18-IV-2004, 1ex., 同地, 6-V-2004, 1ex. 佐奈川堤では春季に多くの個体数を観察した。[図4]

13) コガタルリハムシ

*Gastrophysa atrocyanea* Motschulsky, 1860  
小坂井町地内, 1-V-1977, 1ex.; 佐奈川堤, 10-IV-2004, 2exs., 同地, 6-V-2004, 4exs. 本町においてはすでに山崎 (1988) の記録がある。佐奈川堤では春季に多数の個体を観察した。

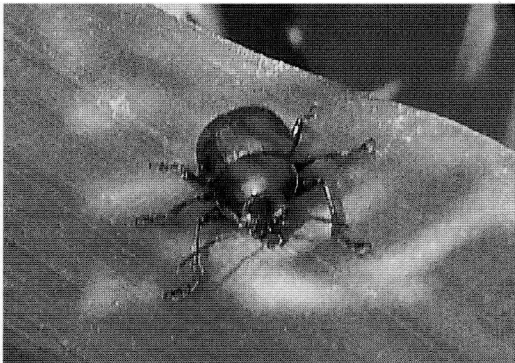


図3 佐奈川堤に比較的多いイモサルハムシ



図4 畑地周辺の草地に多く見られるダイコンハムシ



図5 春季ギシギシの葉上に見られるコガタルリハムシ

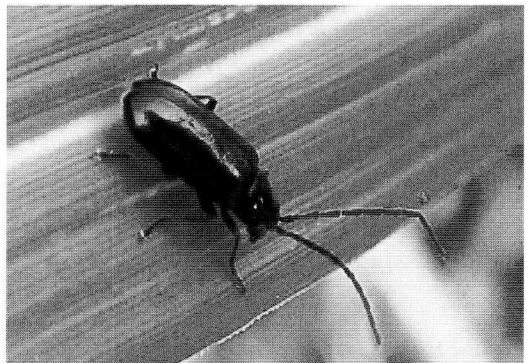


図6 春季から初夏に多いクワハムシ

[図5]

## 14) ヨモギハムシ

*Chrysolina aurichalcea* (Mannerheim, 1825)  
佐奈川堤, 6-V-2004, 1ex., 同地, 25-X-2004, 6exs., 同地, 8-XI-2004, 7exs.; 豊川放水路堤, 28-V-2004, 6exs. 本町においてはすでに山崎(1988)の記録がある。河川周辺部のヨモギの葉上では秋季でも普通に観察される。本町では青色系の個体が多い。

## 15) フジハムシ

*Gonioctena rubripennis* Baly, 1862  
本町においては山崎(1988)の記録がある。

## ヒゲナガハムシ亜科 GALERUCINAE

## 16) サンゴジュハムシ

*Pyrrhalta humeralis* (Chen, 1942)  
佐奈川堤, 24-X-2004, 4exs.; 小坂井走川, 28-X-2004, 7exs. サンゴジュを植栽した場所では普通に観察できる。

## 17) ウリハムシ

*Aulacophora femoralis* (Motschulsky, 1857)  
佐奈川堤, 1-V-1977, 2exs., 同地, 9-VI-1989, 2exs., 同地, 9-IX-1989, 6exs., 同地, 24-X-2004, 3exs., 同地, 8-XI-2004, 2exs.; 東漸寺の森, 22-XI-2004, 1ex. 本町においては山崎(1988)の記録がある。ウリ類を害することでよく知られた種で、晩秋でも活動している。

## 18) クロウリハムシ

*Aulacophora nigripennis* Motschulsky, 1857  
佐奈川堤, 10-IV-2004, 3exs., 同地, 24-X-2004, 6exs., 同地, 8-XI-2004, 5exs.; 若宮八幡社, 10-X-2003, 2exs.; 伊奈城社, 10-X-2003, 7exs., 同地, 22-XI-2004, 3exs.; 菟足神社, 10-X-2003, 1ex.; 小坂井走川, 28-X-2004, 1ex. 本町においてはすでに山崎(1988)の記録がある。本町の各所で普通で、伊奈城社では多くの個体を観察した。

## 19) アトボシハムシ

*Paridea angulicollis* (Motschulsky, 1853)  
本町においては山崎(1988)の記録がある。

## 20) クワハムシ

*Fleutiauxia armata* (Baly, 1874)  
小坂井町地内, 8-V-1977, 1ex.; 佐奈川堤, 10-IV-2004, 1ex., 同地, 18-IV-2004, 1ex., 同地, 6-V-2004, 1ex., 同地, 26-V-2004, 1ex. 春季に多くの個体を観察した。[図6]

## 21) ホタルハムシ

*Monolepta dichroa* Harold, 1877  
小坂井町地内, 9-IV-1989, 1ex.

## ノミハムシ亜科 ALTICINAE

## 22) ヒメカミナリハムシ

*Altica caerulescens* (Baly, 1874)  
若宮八幡社, 10-X-2003, 16exs. 秋季に同地の境内脇では多数の個体を観察した。

## 23) チヤバネツヤハムシ

*Phygasia fulvipennis* (Baly, 1874)  
小坂井町地内, 10-V-1977, 1ex. 本町においてはすでに山崎(1988)の記録がある。

## 24) サメハダツブノミハムシ

*Aphthona strigosa* Baly, 1874  
佐奈川堤, 24-X-2004, 1ex.

## 25) ナトビハムシ

*Psylliodes punctifrons* Baly, 1874  
佐奈川堤, 24-X-2004, 4exs., 同地, 8-XI-2004, 2exs.; 若宮八幡社, 10-X-2003, 2exs.; 伊奈城社, 22-XI-2004, 1ex. 秋季に得られている。

## カメノコハムシ亜科 CASSIDINAE

## 26) スキバジンガサハムシ

*Aspidomorpha transparipennis* (Motschulsky, 1860)  
佐奈川堤, 10-V-1977, 4exs., 同地, 11-V-1977, 2exs., 同地, 3-VI-1977, 6exs. 本町においてはすでに山崎(1988)の記録がある。佐奈川堤のヒルガオ上に普通である。

## 27) ヒメジンガサハムシ

*Cassida fusciorufa* Motschulsky, 1866  
本町においては山崎(1988)の記録がある。

## 28) ヒメカメノコハムシ

*Cassida piperata* Hope, 1842

佐奈川堤, 14-IX-1976, 1ex., 同地, 6-V-2004, 1ex., 同地, 25-X-2004, 1ex.; 若宮八幡社, 10-IX-2003, 2exs. 本町においてはすでに山崎 (1988) の記録がある。

以上、小坂井町からは28種が見出されている。このうち既知種が16種であるので、今回12種を追加したことになる。これらは全体の生息種の断片を知り得たに過ぎないように思われるが、本町の自然環境から察して、それほど多くの種の生息は期待できないものと考えられる。しかし、都市化

が進み市街化された環境下においても、このようなハムシ科甲虫が生息し、日常的に観察できることは大変興味深いことでもある。

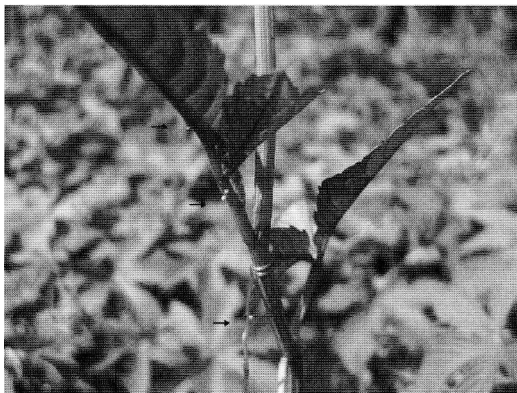
## 文 献

1. 山崎隆弘 (1988) 宮路山・遠望峰山一帯のハムシ相。虫譜, 26 (2) : 12-22.
2. 山崎隆弘・穂積俊文 (1990) 愛知県のハムシ科愛知県の昆虫 (上) : 434-460. (愛知県)

# キタテハがヤブガラシに産卵

小 鹿 亨

キタテハ *Polygonia c-aureum* は、県内平野部などでは、カナムグラ *Humulus japonicus* (クワ科カナムグラ属) などの主な幼虫の食草としている。このため、キタテハの成虫も、カナムグラが繁茂する河川敷や川の堤防、雑木林の林縁などに、その姿を多く見ることができる。また、こうした環境では、同じような蔓植物のヤブカラシ *Cayratia japonica* (ブドウ科ヤブガラシ属) もよく見かける。



キタテハが卵を産み付けたヤブガラシ  
(2003. 10. 4安城市小川町)

筆者はキタテハがヤブガラシへの産卵を目撃しているため、本種の誤産卵の事例として報告する。2003年10月4日、安城市小川町鹿乗川堤防において、キタテハの♀成虫がカナムグラの群落の周囲を低く飛翔して、周辺りのカナムグラの蔓に止まっては飛びたつという行動を繰り返していた。いかにも産卵場所を探しているように筆者には見えたが、その後、堤防の上部に生えていたヤブガラシの蔓の先端近くにとまって腹部を曲げ、産卵行動に入った。この♀は、一度飛びたつたが再度、同じ蔓に飛来して少し離れた場所にも産卵した。(写真中の→)

あたりは、カナムグラ群落にヤブガラシが混じって生えている状態で、量的にはカナムグラが多いようであった。筆者は生み付けられた卵から孵化した幼虫が、カナムグラを食べたかは確認していない。

(おじかとおる)

# 愛知県蒲郡市御堂山のハムシ類

山 崎 隆 弘

三河湾沿岸の蒲郡市の周囲には400m前後の山地が囲むようにある。そのひとつ御堂山（標高363.5m）は市街地の東部に位置する。西側山麓には豊岡池があり、山頂から中腹にかけては自然林が広範囲に見られ、中腹台地の「さがらの森」は自然体験場として一般に親しまれている。また、観音寺周辺は天然記念物の指定を受けたヒメハルゼミの生息地としてもよく知られている。

ハムシ類については、筆者自身が過去に調査を行っているが、今回再調査を実施し若干種を追加

することができた。目録中の産地はすべて御堂山である。現地の調査では何かとお世話になった大平仁夫博士と浅岡孝知氏に対し厚くお礼申し上げる次第である。

## ハムシ科 CHRYSOMELIDAE

モモボトハムシ亜科 ZEUGOPHORINAE (1種)

### 1) ワモンナガハムシ

*Zeugophora annulata* (Baly, 1873)

26-IV-2004, 1ex. すでに山崎 (1988) の記録

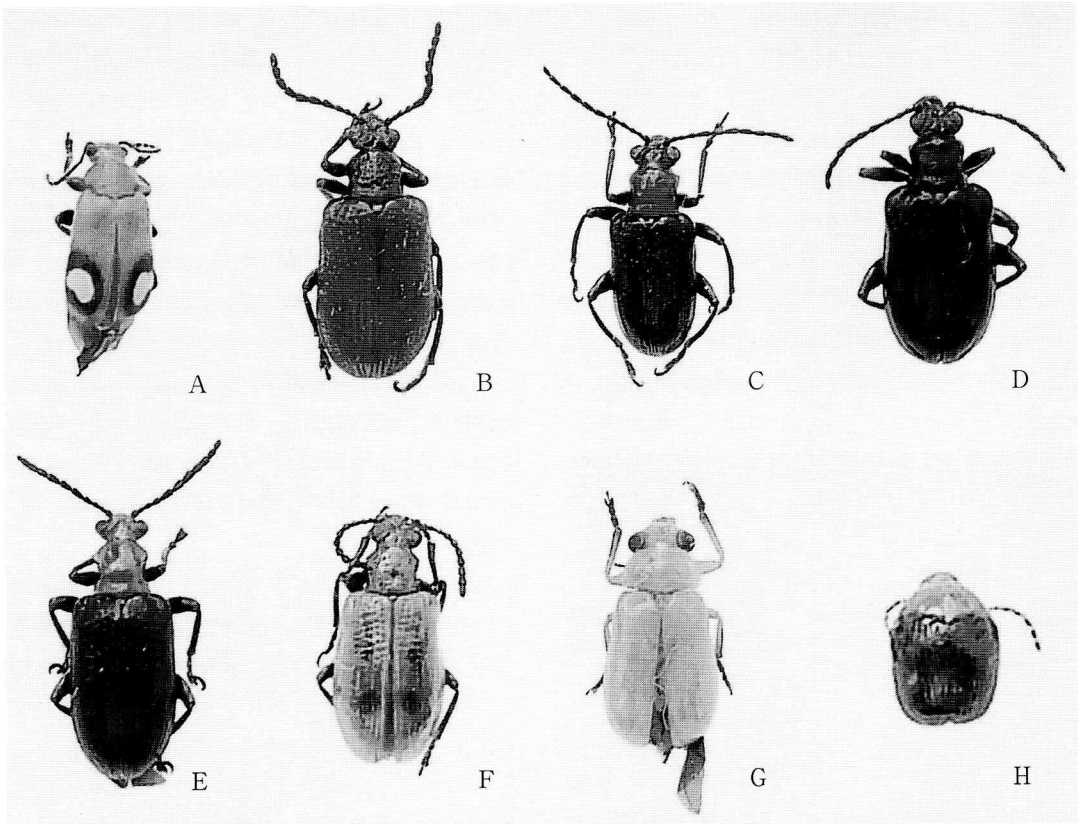


図1 御堂山のハムシ類①

- |               |               |
|---------------|---------------|
| A. ワモンナガハムシ   | B. キイロクビナガハムシ |
| C. アカクビボソハムシ  | D. ルリクビボソハムシ  |
| E. ヤマイモハムシ    | F. トホシクビボソハムシ |
| G. キイロナガツツハムシ | H. タマツツハムシ    |



がある。さがらの森で1頭得た。[図1. A]

クビボソハムシ亜科 CRIOCERINAE (6種)

2) キイロクビナガハムシ

*Lilioceris rugata* (Baly, 1865)

山崎・穂積 (1990) の記録がある。付近では五井山・遠望峰山で記録がある。[図1. B]

3) アカクビボソハムシ

*Lema diversa* Baly, 1873

12-VI-1980, 2exs. すでに山崎 (1988) の記録がある。この個体はツマキ型である。[図1. C]

4) ルリクビボソハムシ

*Lema cirsicola* Chujo, 1959

山崎 (1988), 山崎・穂積 (1990) の記録がある。[図1. D]

5) キバラルリクビボソハムシ

*Lema concinnipennis* Baly, 1865

山崎 (1988), 山崎・穂積 (1990) の記録がある。今回の調査では得られなかった。

6) ヤマイモハムシ

*Lema honorata* Baly, 1873

7-V-2004, 1ex., 22-V-2004, 2exs., 20-VI, 4exs., 4-IX-2004, 4exs. すでに山崎 (1988), 山崎・穂積 (1990) の記録がある。[図1. E]

7) トホシクビボソハムシ

*Lema decempunctata* Gebler, 1830

7-V-2004, 1ex. クコの葉上に見られる普通種であるが御堂山では少ない。[図1. F]

ナガツツハムシ亜科 CLYTRINAE (2種)

8) キボシルリハムシ

*Smaragdina aurita* (Linnaeus, 1766)

山崎 (1988) の記録がある。

9) キイロナガツツハムシ

*Smalagdina nipponensis* (Chujo, 1951)

山崎 (1988) の記録がある。各地で得られているがいずれも個体数は多くない。[図1. G]

ツツハムシ亜科 CRYPTOCEPHALINAE (5種)

10) タマツツハムシ

*Adiscus leuisii* (Baly, 1873)

20-VI-2004, 5exs. 記録以外にもさがらの森で若干の個体を観察した。[図1. H]

11) バラルリツツハムシ

*Cryptocephalus approximatus* Baly, 1873

山崎 (1988), 山崎・穂積 (1990) の記録がある。普通種であるが今回の調査時には次種のみが得られた。

12) キアシルリツツハムシ

*Cryptocephalus fortunatus* Baly, 1873

22-V-2004, 4exs., 20-VI-2004, 1ex. 奥三河山地に多い種である。御堂山では初夏の頃に見られる。[図2. A]

13) クロボシツツハムシ

*Cryptocephalus signaticeps* Baly, 1873

16-IV-2004, 1ex., 26-IV-2004, 1ex., 7-V-2004, 1ex. 春季に得られる普通種である。[図2. B]

14) セスジツツハムシ

*Cryptocephalus parvulus* Muller, 1776

山崎 (1988) の記録がある。今回の調査では得られなかった。[図2. C]

コブハムシ亜科 CHLAMISINAE (2種)

15) ムシクソハムシ

*Chlamisus spilotus* (Baly, 1873)

13-IV-2004, 2ex., 26-IV-2004, 4exs., 7-V-2004, 5exs. 記録以外にも若干の個体を観察した。

16) ツバキコブハムシ

*Chlamisus lewisii* (Baly, 1873)

山崎 (1988), 山崎・穂積 (1990) の記録がある。ヤブツバキから得られている。

ツヤハムシ亜科 LAMPROSOMATINAE (1種)

17) ドウガネツヤハムシ

*Oomorhoides cupreatus* (Baly, 1873)

26-IV-2004, 4exs., 22-V-2004, 3exs. すでに山崎 (1988), 山崎・穂積 (1990) の記録がある。記録以外にもタラノキで多くの個体を観察した。

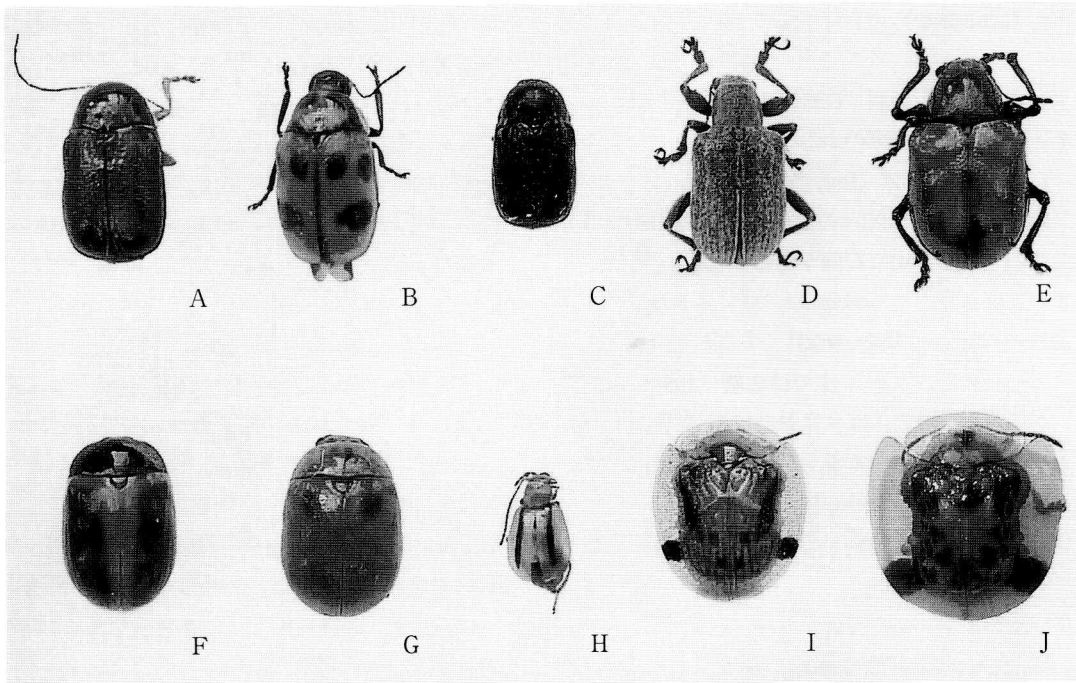


図2 御堂山のハムシ類②

- |                 |              |               |
|-----------------|--------------|---------------|
| A. キアシリツツハムシ    | B. クロボシツツハムシ | C. セスジツツハムシ   |
| D. ケブカサルハムシ     | E. アカガネサルハムシ | F. フジハムシ      |
| G. ヤツボシハムシ      | H. フタスジヒメハムシ | I. セモンジンガサハムシ |
| J. イチモンジカメノコハムシ |              |               |

## サルハムシ亜科 EUMOLPINAE (10種)

## 18) アオガネヒメサルハムシ

*Nodina chalcosoma* Baly, 1874

2-VII-2004, 5exs. さがらの森では記録以外にも若干の個体を観察した。

## 19) ウスイロサルハムシ

*Basilepta pallidula* (Baly, 1874)

2-VII-2004, 1ex. 御堂山では個体数が少ない。

## 20) アオバネサルハムシ

*Basilepta fulvipes* (Motschulsky, 1860)

2-VII-2004, 5exs. 盛夏の頃多くの個体を観察した。

## 21) ムナゲクロサルハムシ

*Basilepta hirticollis* (Baly, 1874)

22-V-2004, 1ex., 20-VI-2004, 4ex. 普通種である。初夏の頃に記録以外にもイヌツゲで多くの個体を観察した。

## 22) ヒメキバネサルハムシ

*Pagria signata* (Motschulsky, 1858)

22-V-2004, 1ex. すでに山崎(1988)の記録がある。平地に普通の種である。

## 23) クロオビカサハラハムシ

*Hyperaxis fasciata* (Baly, 1874)

13-IV-2004, 1ex., 16-IV-2004, 2exs., 26-IV-2004, 4exs., 22-V-2004, 2exs., 4-IX-2004, 1ex. すでに山崎(1988)、山崎・穂積(1990)の記録がある。各地に普通にいる種である。

## 24) マダラアラゲサルハムシ

*Demotina fasciculata* Baly, 1874

13-IV-2004, 1ex., 16-IV-2004, 4exs., 26-IV-2004, 3exs., 7-V, 1ex., 22-V-2004, 4exs., 20-VI-2004, 2exs., 4-IX-2004, 3exs., 19-IX-2004, 1ex., 6-XI-2004, 1ex. すでに山崎(1988)、山崎・穂積(1990)の記録がある。記録以外にも多数の個体を観察した。

## 25) カサハラハムシ

*Demotina modesta* Baly, 1874

20-VI-2004, 1ex., 4-IX-2004, 1ex.

- 26) アカガネサルハムシ  
*Acrothinium gaschkevitchii gaschkevitchii* (Motschulsky, 1860)  
 26-IV-2004, 1ex., 22-V-2004, 6exs. すでに山崎(1988), 山崎・穂積(1990)の記録がある。美しい種でノブドウなどから比較的普通に得られる。[図2. E]
- 27) ケブカサルハムシ  
*Lypsthes lewisi* (Baly, 1878)  
 26-IV-2004, 7exs., 7-V-2004, 4exs., 22-V-2004, 1ex. すでに山崎(1988), 山崎・穂積(1990)の記録がある。さがらの森周辺のタブノキに多産する。[図2. D]
- ハムシ亜科 CHRYSOMELINAE (3種)
- 28) ヨモギハムシ  
*Chrysolina aurichalcea* (Mannerheim, 1825)  
 6-XI-2004, 1ex. すでに山崎(1988)の記録がある。
- 29) フジハムシ  
*Gonioctena rubripennis* Baly, 1862  
 山崎(1988)の記録がある。御堂山ではクロスジ型が原型よりも多く、東海地方の分布型と同じ傾向を示している。[図2. F]
- 30) ヤツボシハムシ  
*Gonioctena nigroplagiata* Baly, 1862  
 7-V-2004, 4exs. エノキの葉上にいるが、その場合は一度に多くの個体が見られる。[図2. G]
- ヒゲナガハムシ亜科 GALERUCINAE (8種)
- 31) アカタデハムシ  
*Pyrrhalta semifulva* (Jacoby, 1885)  
 16-IV-2004, 1ex., 26-IV-2004, 4exs., 7-V-2004, 2exs., 2-VII-2004, 2exs. すでに山崎(1988)の記録がある。記録以外にも多数の個体を観察した。
- 32) ウリハムシ  
*Aulacophora femoralis* (Motschulsky, 1857)  
 19-IX-2004, 1ex. すでに山崎(1988)の記録がある。
- 33) クロウリハムシ  
*Aulacophora nigripennis* Motschulsky, 1857  
 13-IV-2004, 1ex., 4-IX-2004, 1ex. すでに山崎(1988)の記録がある。この地方に多い種である。
- 34) クワハムシ  
*Fleutiauxia armata* (Baly, 1874)  
 26-IV-2004, 4exs., 7-V-2004, 2ex., 22-V-2004, 2exs. 記録以外にも多数の個体を観察した。
- 35) イチモンジハムシ  
*Morphosphaera japonica* (Hornstedt, 1788)  
 山崎(1988)の記録がある。愛知県での記録の少ない種である。
- 36) ケブカクロナガハムシ  
*Hesperomorpha hirsuta* (Jacoby, 1885)  
 26-IV-2004, 2ex., 22-V-2004, 8exs. 御堂山では春季に比較的多く見られた。
- 37) フタスジヒメハムシ  
*Medythia nigrobilineata* (Motschulsky, 1860)  
 19-IX-2004, 1ex. 草地にいる。[図2. H]
- 38) キバラヒメハムシ  
*Exosoma flaviventre* (Motschulsky, 1860)  
 22-V-2004, 6exs. さがらの森では多い。
- ノミハムシ亜科 ALTICINAE (12種)
- 39) コカミナリハムシ  
*Altica viridicyanea* (Baly, 1874)  
 山崎(1988)の記録がある。
- 40) チャバネツヤハムシ  
*Phygasia fulvipennis* (Baly, 1874)  
 山崎(1988)の記録がある。
- 41) ヒゲナガアラハダトビハムシ  
*Trachyaphthona sordida* (Baly, 1874)  
 山崎(1988)の記録がある。
- 42) ツブノミハムシ  
*Aphthona perminuta* Baly, 1875  
 13-IV-2004, 5exs., 16-IV-2004, 1ex., 26-IV-2004, 6exs., 7-V-2004, 1ex. すでに山崎(1988)の記録がある。春季に多くの個体を観察した。

- 43) サメハダツブノミハムシ  
*Aphthona strigosa* Baly, 1874  
16-IV-2004, 4exs., 26-IV-2004, 1ex., 7-V-2004, 1ex., 6-XI-2004, 11exs. すでに山崎(1988)の記録がある。春季から晩秋まで成虫が見られる。このほか多数の個体を観察している。
- 44) ヒゲナガルリマルノミハムシ  
*Hemipyxis plagioderoides* (Motschulsky, 1860)  
7-V-2004, 1ex., 22-V-2004, 20exs. すでに山崎(1988)の記録がある。さがらの森では多くの個体を観察した。
- 45) キバネマルノミハムシ  
*Hemipyxis flavipennis* (Baly, 1874)  
7-V-2004, 1ex., 22-V-2004, 1ex. すでに山崎(1988)の記録がある。
- 46) オオアカマルノミハムシ  
*Argopus clypeatus* Baly, 1874  
22-V-2004, 2exs. すでに山崎(1988)の記録がある。
- 47) アカイロマルノミハムシ  
*Argopus punctipennis* (Motschulsky, 1866)  
山崎(1988)の記録がある。
- 48) キイロタマノミハムシ  
*Sphaeroderma unicolor* Kimoto, 1965  
15-VI-1980, 3exs.
- 49) ツマキタマノミハムシ  
*Sphaeroderma apicale* Baly, 1874  
山崎(1988)の記録がある。
- 50) ナスナガスネトビハムシ  
*Psylliodes angusticollis* Baly, 1874  
22-V-2004, 1ex. 御堂山ではやや少ない。

## トゲハムシ亜科 HISPINAE (1種)

- 51) カタビロトゲハムシ  
*Dactylispa subquadrata* (Baly, 1874)  
山崎(1988)の記録がある。

## カメノコハムシ亜科 CASSIDINAE (4種)

- 52) スキバジンガサハムシ  
*Aspidomorpha transparipennis* (Motschulsky, 1860)

2-VII-2004, 1ex. ヒルガオに見られる種であるが御堂山では少ない。

- 53) ヒメカメノコハムシ  
*Cassida piperata* Hope, 1842  
7-V-2004, 1ex. すでに山崎(1988)の記録がある。各地に普通の種である。

- 54) セモンジンガサハムシ  
*Cassida versicolor* (Boheman, 1855)  
山崎(1988)の記録がある。[図2.]

- 55) イチモンジカメノコハムシ  
*Thlaspidia cribrata* (Boheman, 1855)  
16-IV-2004, 3exs., 26-IV-2004, 6exs., 22-V-2004, 2exs., 4-IX-2004, 1ex., 19-IX-2004, 1ex. すでに山崎(1988)の記録がある。さがらの森周辺ではムラサキシキブの葉上でよく目に付く種である。[図2.]

これまでに御堂山から55種が見出されている。既知種は35種であるので、新たに20種を追加したことになる。多くは暖地系の種であるが、セスジツツハムシのように寒地形要素の種も分布している。全体の印象としては種類のやや少ない感がある。サルハムシ亜科では10種を産しており、御堂山が温暖な地域であることを伺い知ることができる。愛知県では比較的少ないキイロナガツツハムシやケブカサルハムシ・イチモンジハムシなども産しており、興味深いハムシ相の見られる場所であるとも言える。しかし、まだ生息種の大要を知り得たに過ぎない段階と思われるので、今後の調査の進展に期待するところが大きい。

## 参考文献

- 1) 山崎隆弘(1975) 蒲都市の甲虫類。虫譜, 14: 19-34.
- 2) 山崎隆弘(1988) 宮地山・遠望峰山一帯のハムシ相。虫譜, 26(2): 12-22.
- 3) 山崎隆弘(1993) 愛知県に産するクビボツハムシ亜科について。三河の昆虫, (40): 354.
- 4) 山崎隆弘・穂積俊文(1990) 愛知県のハムシ科・愛知県の昆虫(上): 434-460.

# トゲサシガメ岡崎市にも生息

岩 月 学

トゲサシガメ *Polididus armatissimus* Stålは浅岡孝知氏が、東加茂郡旭町での生息を報告されたのが愛知県最初の記録であることは知られており(2001)、筆者も豊田市における生息について報告した(2002)。

浅岡氏は各地で見つかる可能性を示唆されているし、筆者も豊田市での採集経験から「湿気が多い草地」ということから岡崎市ハツ木町で採集を試みて生息を確認し、ほかの1か所も確認したので報告する。

なお、ハツ木町は、岡崎市北部の低山地で、豊田市南部の生息地渡合町(他で報告の予定)とは矢作川の支流巴川を挟んで近い所である。

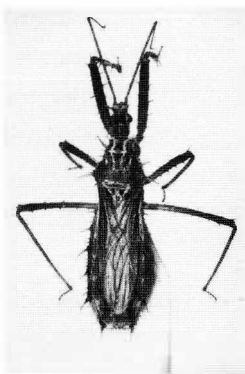


図1 真福寺町採集のトゲサシガメ

## ③11月7日 真福寺町 2頭採集

ハツ木町と、標高164m、南北約500m、東西700mの山を越えた東側の、ハツ木町以上に山間の場所であるので、可能性が高いと思い採集を試みた。高みの水田下の流れを覆うミゾソバ(タデ科)の茂みで一度に2頭採集して中止。

以上、2か所で11頭を確認したが、やはり「湿気が多い草地」であった。



図2. 真福寺町 手前草叢の裏の水の流れている所

## 確認状況

### ①2004年11月6日 ハツ木町 2頭採集

すぐ近くの低みを水が流れる小さな畑地の隅のやや大きなイヌコウジュ(シソ科)2株が並んでいるのから叩き網で採集。

### ②11月7日 ハツ木町 1頭採集 6頭確認

6日の畑地に近いアシの一面に生えている放棄水田の畦沿いの細い流れの横の草地で2頭採集。

その流れが曲がったチガヤ(イネ科)とほかの草が少し混じった場所でも採集、確認し、まだ多くいるようであったが中止。

こうした山間の場所は各地に多いので、トゲサシガメが見つけれられるのを期待したい。

\*なお、本誌No49(2002)の報告で本種の学名が誤りであったことを深くお詫びする。

## 主な参考文献

浅岡孝知(2001)旭町の昆虫。(財)旭高原自然活用協会。

岩月学(2002)三河の昆虫 No.49.

# 蒲郡市・御堂山の半翅類

浅岡孝知

御堂山は標高325.7mであり、蒲郡市に位置し、砥神山と五井山と接している。県指定の天然記念物としてヒメハルゼミが昭和32年に指定されていて、地元では現在でも「ヒメハルゼミの声を聞く会」など保護に努めている。1980年代には、この県立公園の調査が行われた。その後は足を踏み入れることもなかった。樹木は茂り林床が暗くなっていた。山頂への林道は採集をするのにはよいポイントがなく、登山をする感じであった。

今回、三度の調査とライトトラップを一度することができたのでその結果を報告する。わずかばかりの試料であるが、今後の調査の参考になればと思う。調査には、大平仁夫博士、山崎隆弘両氏が同行された。いろいろとお世話になった両氏に対して感謝を申し上げる。以下は目録と若干の説明である。目録の配列等は平嶋義宏監修(1989)日本産昆虫総目録に従っている。

## 目録

### カメムシ目 HEMIPTERA

#### ヒシウンカ科 Cixiidae

- 1 ヨスジヒシウンカ *Reptalus quadricinctus* Matsumura, 1914  
2-VII-2004. 1ex.

#### ハネナガウンカ科 Derbidae

- 1 アカメガシワハネナガウンカ *Vekunta malloti* Matsumura, 1914  
27-VII-2004. 1ex.

#### ウンカ科 Delphacidae

- 1 トビイロウンカ *Nilaparvata lugens* (Stal, 1854)  
2-VII-2004. 1ex. 灯火.

#### グンバイウンカ科 Tropiduchidae

- 1 タテスジグンバイウンカ *Catullia vitata* Matsumura, 1914  
浅岡孝知(1987)に記録がある。
- 2 ヒラタグンバイウンカ *Ossoides lineatus* Bierman, 1910  
7-VIII-2004. 2exs. 19-IX-2004. 2exs.

#### マルウンカ科 Issidae

- 1 マルウンカ *Gergithus variabilis* (Butler, 1875)  
浅岡孝知(1987)に記録がある。

#### アオバハゴロモ科 Flatidae

- 1 アオバハゴロモ *Geisha distinctissima* (Walker, 1858)  
19-IX-2004. 1ex.
- 2 トビイロハゴロモ *Mimophantia maritima* Matsumura, 1900  
浅岡孝知(1987)に記録がある。

#### ゼミ科 Cicadidae

- 1 クマゼミ *Cryptotympana facialis* (Walker, 1858)  
5-VIII-2004. 1♂.



図1 旧相良山荘側から見た御堂山

- 2 ヒメハルゼミ *Euterpnosia chibensis chibensis*  
Matsumura, 1917  
2-VII-2004. 鳴き声多数. 5-VIII-2004. 鳴き声.  
生息個体数はおびただしいものと想像される。  
ライトトラップを実施した折の観察である。鳴き  
声は夕方点灯前の6時30分ごろから始まり、暗く  
なる8時ごろまで聴くことができる。辺り一帯は  
シイを代表とする暖帯林であり、80年代より一層  
うっそうと茂ってきている。
- 3 アブラゼミ *Graptopsaltria nigrofuscata*  
(Motschulsky, 1866)  
5-VIII-2004. 鳴き声。
- 4 ミンミンゼミ *Oncotympana maculaticollis*  
(Motschulsky, 1866)  
27-VIII-2004. 鳴き声。
- 5 ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi* (Fabri-  
cius, 1794)  
27-VIII-2004. 鳴き声。
- 6 ツクツクボウシ *Meimuna opalifera* (Walker,  
1850)  
27-VIII-2004. 鳴き声。
- 7 ヒグラシ *Tanna japonensis japonensis* (Dis-  
tant, 1892)  
5-VIII-2004. 鳴き声。
- コガシラアワフキ科 Cercopidae
- 1 コガシラアワフキ *Eoscartopis assimilis*  
(Uhler, 1896)  
20-VI-2004. 1ex. 2-VII-2004. 1ex. 灯火。
- アワフキムシ科 Aphrophoridae
- 1 ホシアワフキ *Aphrophora stictica* Matsumu-  
ra, 1903  
19-IX-2004. 1ex.
- ミミズク科 Ledridae
- 1 ミミズク *Ledra auditura* Walker, 1858  
2-VII-2004. 1ex. 灯火。
- アオズキンヨコバイ科 Iassidae
- 1 アオズキンヨコバイ *Batracomorphus*  
*mundus* (Matsumura, 1912)  
2-VII-2004. 1ex. 灯火。
- ホシヨコバイ科 Xestocephalidae
- 1 イグチホシヨコバイ *Xestocephalus iguchii*  
Matsumura, 1914  
2-VII-2004. 1ex. 灯火。
- ブチミヤクヨコバイ科 Drabescidae
- 1 ブチミヤクヨコバイ *Drabescus nigrifemora-*  
*tus* (Matsumura, 1905)  
2-VII-2004. 1ex. 灯火。
- ホシサジヨコバイ科 Paraboloponidae
- 1 ホシサジヨコバイ *Parabolopona guttata*  
(Uhler, 1896)  
2-VII-2004. 2exs. 灯火。
- オオヨコバイ科 Cicadellidae
- 1 ツマグロオオヨコバイ *Bothrogonia ferrug-*  
*inea* (Fabricius, 1787)  
27-VIII-2004. 1ex. 19-IX-2004. 1ex.
- 2 オオヨコバイ *Cicadella viridis* (Linnaeus,  
1758)  
浅岡孝知(1987)に記録がある。
- 3 マエジロオオヨコバイ *Kolla atramentaria*  
(Motschulsky, 1859)  
27-VIII-2004. 1ex.
- ヨコバイ科 Deltocephalidae
- 1 ヒシモンヨコバイ *Hishimonus sellatus*  
(Uhler, 1896)  
2-VII-2004. 1ex. 灯火。
- 2 トガリヨコバイ *Doratulina producta* (Mat-  
sumura, 1902)  
27-VIII-2004. 1ex.
- アメンボ科 Gerridae
- 1 アメンボ *Gerris paludum paludum* (Fabri-  
cius, 1794)  
浅岡孝知(1987)に記録がある。

## カスミカメムシ科 Miridae

- 1 クロスジツヤカスミカメ *Deraeocoris yasunagai* Nakatani, 1995  
20-VI-2004. 1ex.
- 2 オオクロセダカカスミカメ *Proboscidoecoris varicornis* (Jakovlev, 1904)  
2-VII-2004. 1ex. 灯火.

## グンバイムシ科 Tingidae

- 1 ナシグンバイ *Stephanitis nashi* Esaki et Takeya, 1931  
浅岡孝知(1987)に記録がある。

## サシガメ科 Reduviidae

- 1 シマサシガメ *Sphedanolestes impressicollis* (Stal, 1861)  
2-VII-2004. 1ex. 19-IX-2004. 1ex.
- 2 ヤニサシガメ *Velinus nodipes* (Uhler, 1860)  
浅岡孝知(1987)に記録がある。

## ナガカメムシ科 Lygaeidae

- 1 セスジナガカメムシ *Arocatus melanostoma* Scott, 1874  
浅岡孝知(1987)に記録がある。
- 2 ヒメナガカメムシ *Nysius plebejus* Distant, 1883  
20-VI-2004. 2exs.
- 3 ムラサキナガカメムシ *Pylorgus colon* (Thunberg, 1784)  
19-IX-2004. 2exs.
- 4 オオカメムシ *Piocoris varius* (Uhler, 1860)  
27-VIII-2004. 1ex. 19-IX-2004. 1ex.
- 5 オオチャイロナガカメムシ *Lethaeus assamensis* (Distant, 1901)  
2-VII-2004. 1ex. 灯火.
- 6 オオモンシロナガカメムシ *Metochus abbreviatus* (Scott, 1874)  
浅岡孝知(1987)に記録がある。
- 7 チャイロナガカメムシ *Neolethaeus dallasi* (Scott, 1874)  
2-VII-2004. 2exs. 19-IX-2004. 1ex.

- 8 サビヒョウタンナガカメムシ *Pamerarma rustica* (Scott, 1874)  
2-VII-2004. 1ex. 灯火.
- 9 キベリヒョウタンナガカメムシ *Paraparomius lateralis* (Scott, 1874)  
2-VII-2004. 1ex. 灯火.

## オオホシカメムシ科 Largidae

- 1 ヒメホシカメムシ *Physopelta cincticollis* Stal, 1863  
2-VII-2004. 1ex. 灯火.
- 2 オオホシカメムシ *Physopelta gutta* (Burmeister, 1834)  
20-VI-2004. 1ex. 2-VII-2004. 1ex. 灯火. 19-IX-2004. 1ex.

## ホソヘリカメムシ科 Alydidae

- 1 クモヘリカメムシ *Leptocoris chinensis* (Dallas, 1852)  
19-IX-2004. 1ex.
- 2 ホソヘリカメムシ *Riptortus clavatus* (Thunberg, 1783)  
2-VII-2004. 1ex. 灯火.

## ヘリカメムシ科 Coreidae

- 1 ハリカメムシ *Cletus rusticus* Stal, 1859  
19-IX-2004. 1ex.
- 2 ホシハラビロヘリカメムシ *Homoeocerus unipunctatus* (Thunberg, 1783)  
20-VI-2004. 1ex. 27-VIII-2004. 1ex.
- 3 ツマキヘリカメムシ *Hygia opaca* (Uhler, 1860)  
浅岡孝知(1987)に記録がある。
- 4 キバラヘリカメムシ *Plinactus bicoloripes* Scott, 1874  
20-VI-2004. 7exs. 2-VII-2004. 1ex.  
御堂山周辺には本種の食草のニシキギが植栽されていて、多くの個体数が見出されている。実がならないのか秋季には見出せなかった。

## ヒメヘリカメムシ科 Rhopalidae



- 1 ブチヒゲヘリカメムシ *Stictopleurus punctatonevrosus* (Goeze, 1773)  
20-VI-2004. 1ex. 19-IX-2004. 1ex.
- マルカメムシ科 *Plastaspidae*
- 1 マルカメムシ *Megacopta punctatissima* (Montandon, 1894)  
2-VII-2004. 1ex. 19-IX-2004. 1ex.
- カメムシ科 *Pentatomidae*
- 1 アカスジカメムシ *Graphosoma rubrolineatum* (Westwood, 1873)  
27-VIII-2004. 1ex.
- 2 シロヘリカメムシ *Aenalia lewisi* (Scott, 1874)  
浅岡孝知 (1987) に記録がある。
- 3 ウシカメムシ *Alcimocoris japonensis* (Scott, 1880)  
2-VII-2004. 1ex.
- 4 ムラサキシラホシカメムシ *Eysarcoris annamita* Breddin, 1913  
27-VIII-2004. 3exs.
- 5 シラホシカメムシ *Eysarcoris ventralis* (Westwood, 1837)  
2-VII-2004. 1ex. 灯火. 19-IX-2004. 1ex.
- 6 ツヤアオカメムシ *Glaucius subpunctatus* Walker, 1867  
2-VII-2004. 3exs. 灯火.
- 7 クサギカメムシ *Halyomorpha picus* (Fabricius, 1794)  
2-VII-2004. 1ex. 灯火. 5-VIII-2004. 1ex.
- 8 アオクサカメムシ *Nezara antennata* Scott, 1874  
2-VII-2004. 1ex. 灯火.
- 9 チャバネアオカメムシ *Plautia crossota stali* Scott, 1874  
20-VI-2004. 1ex. 2-VII-2004. 1ex. 灯火. 19-IX-2004. 1ex.
- エビイロカメムシ科 *Phyllocephalidae*
- 1 エビイロカメムシ *Gonopsis affinis* (Uhler, 1860)  
27-VIII-2004. 2exs. 19-IX-2004. 2exs.

以上、御堂山の半翅類は28科62種を記録する。今回の調査では、天然記念物に指定されているヒメハルゼミを確認することができたことは収穫である。また、暖地性の種であるウシカメムシが確認された。かつて五井山でも記録しており、広く分布しているようである。その他の種は暖地の平地や低山地にごく普通に見いだされる種ばかりである。

#### 参考文献

- 1) 浅岡孝知 (1987) 遠峰山・宮地山県立公園一帯の半翅類, 虫譜: (47), 17-22. 三河生物同好会, 豊橋市.
- 2) 平嶋義宏監修 (1989) 日本産昆虫総目録. 九州大学農学部昆虫学研究室・日本野生動物センター

#### ◇自宅の灯火に飛来したシロヘリクチブトカメムシ◇

豊橋市の我が家の明かりに、平成16年10月31日21:00ごろ、シロヘリクチブトカメムシ *Andralus spinidens* (Fabricius, 1787) が飛来してきたので報告する。これまでの豊橋市の記録は、同天伯町で1個体、西口町での1個体である。いずれも地表近くであり、灯火に飛来してきたことは初めてである。本種は南方系の種であり、今後も各地での記録が期待できるものと思われる。

浅岡孝知

# 蒲郡市御堂山と宝飯郡御津山のコメツキムシ

大平 仁 夫

御堂山(標高363m)は、蒲郡市と御津町との境界にある山で、1960年に指定された県天然記念物のヒメハルゼミの発生地として知られている。また、御津山(標高94.5m)はJRあいちみと駅の北の豊川市との境にある孤立した低山で、山頂は公園になっていて桜が植えられているが、周辺部はシヤカシ類の照葉樹林で覆われている。

筆者は若い頃に御堂山のヒメハルゼミの観察に訪れたことがあるが、一般昆虫について調べたことはなかった。2003年度の「三河昆虫研究会」の総会で、この山の昆虫を調べることになり、山崎隆弘氏、浅岡孝知氏らの協力をえて調査した。御堂山の山頂部の宿泊施設はすでに無くなり、そこはキャンプ場だけになっていた。しかし、ヒメハルゼミは健在で神社周辺の森でよく鳴いていた。採集は主として山頂部一帯で数回と、中腹の神社近くでナイターを1回することができたが、筆者のコメツキムシ類は思ったより貧弱で、わずか13種しか見出されなかった。周辺は深い樹林で囲まれていて、山頂部に吹き上げによる種が集まるのを期待したが、期待はずれに終わった。

本文を草するにあたり、御堂山や御津山の調査を支援していただいた山崎・浅岡の両氏に御礼申しあげる。

## 種の目録

### 【御堂山】

1. *Cryptalaus larvatus pini* (Lewis, 1894) フタモンウバタマコメツキ  
標本：1♀, 2-VI-2004, 大平採集。  
ライト・トラップに飛来した。
2. *Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus* (Motschulsky, 1861) サビキコリ  
標本：2♂♂2♀♀, 22-V-2004, 大平採集。  
山頂部の公園内で見出した。

3. *Pectocera fortunei fortunei* Candèze, 1873  
ヒゲコメツキ

標本：1♂, 26-IV-2004, 大平採集；2♂♂1♀, 22-V-2004, 大平採集。

山頂部でビーテングをして見出した。

4. *Yukoana carinicornis* (Lewis, 1894) ヘリムネマメコメツキ

標本：1♀, 16-IV-2004, 山崎採集。

ビーテングで得られた。

5. *Cidnopus marginicornis* (Lewis, 1894) ウスチャイロコメツキ

標本：1♂, 13-IV-2004, 大平採集；1♂, 26-IV-2004, 大平採集；2♀♀, 7-V-2004, 山崎採集。

各地の低山地の広葉樹林で春に見出される種である。

6. *Hemicrepidius (Pseudathous) secessus secessus* (Candèze, 1873) クロツヤハダコメツキ

標本：3♂♂, 20-VI-2004, 山崎採集。

雑木林に晩春から初夏に見出される種である。

7. *Dolerozomus gracilis* (Candèze, 1873) キバネホソコメツキ

標本：3♀♀, 26-IV-2004, 大平採集。

コテマリの花上で見出した。

8. *Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus* (Candèze, 1873) アカハラクロコメツキ

標本：1♂, 13-IV-2004, 山崎採集；1♂, 20-IV-2004, 大平採集；1♀, 2-V-2004, 大平採集；1♂1♀, 7-V-2004, 山崎採集。

いずれもビーテングで見出した。

9. *Ampedus (Ampedus) ivanobi* (Jakobson, 1913)

標本：1♀, 22-V-2004, 大平採集。

山頂部の花上で見出した。

- 10. *Melanotus (Melanotus) legatus legatus* Candèze, 1860 クシコメツキ

標本：2♂♂1♀，2-V-2004，大平採集；1♀，7-V-2004，山崎採集；1♂，22-V-2004。  
各地に広く分布する普通種である。

- 11. *Melanotus (Melanotus) erythropygus erythropygus* Candèze, 1873 コガタクシコメツキ

標本：1♂，26-IV-2004，大平採集；2♂♂1♀，22-V-2004。  
山頂部のビーテングで見出した。

- 12. *Melanotus (Spheniscozomus) cete cete* Candèze, 1860 アカシオオクシコメツキ

標本：4♂♂，26-IV-04，大平採集；1♀，7-V-04，山崎採集；1♂，22-V-04，大平採集。  
山頂部の雑木林をビーテングして見出した。

- 13. *Paracardiophorus nakanei honndoensis* Ôhira, 1997 ホンドコハナコメツキ

標本：1ex.，16-IV-04，山崎採集。  
各地に広く分布する種で、雑木林の新芽などにする。昔の記録で*P. pullatus* (コハナコメツキ)として記録された中に、本種が混在していると思われる。

【御津山】

- 1. *Agrypnus (Sabikikorius) fuliginosus* (Candèze, 1865) ホソサビキコリ

標本：2♂♂，22-V-04，大平採集。  
各地の雑木林に広く分布する種である。

- 2. *Neopristilophus serrifer serrifer* (Candèze, 1873) アカヒゲヒラタコメツキ

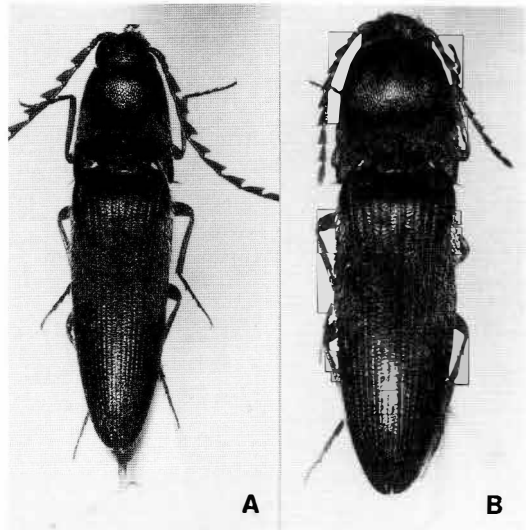
標本：1♂，22-V-04，大平採集。  
山頂部でビーテングして見出した。

- 3. *Mulsanteus junior junior* (Candèze, 1983) ヒゲナガコメツキ (図，A♂B♀)

標本：27♂♂20♀♀，22-V-04，大平採集。  
古い記録では*Neotrichophorus*の属名で扱われている。北海道から九州の各地の分布する種で、一般に雑木林で見出されるが、島嶼にも広く分布

しており、三河湾では山崎・浅岡 (1993) によれば、竹島、幡豆沖ノ島、佐久島、佐久弁天島から記録されている。

筆者はこの御津山の山頂部で、シイ樹の茂みで多数の個体を採集した。1本の茂みでは20頭あまり、他の1本の茂みでは20頭あまりが集団で潜っていた。他の桜や他の樹木からも2~3頭ずつ得られているので、山崎さんの分も含めるとこの狭い範囲での採集した数は70頭あまりにはなるとと思われる。山崎さんはビーテングに落ちた多くは逃がしたと云われていたし、筆者もかなりの数を逃がしたので実際に発生していた数は100頭を越えると思われる。その折りに採集した一部を持ち帰り、飼育して習性を調べてが、日中は容器の中に入れた葉の茂みに潜んで動きはあまりなかったが、夜には飼育ケース内を動きまわり、糖蜜にも集まっていた。本種は夜行性であると思われた。



引用文献

山崎隆弘・浅岡孝知，1993．三河湾・島の昆虫：469pp. (著者自刊)

# 作手村「長ノ山湿原」の周辺のコメツキムシ

大平 仁 夫

作手村岩波にある「長ノ山湿原」は、昭和43年(1973)に県の天然記念物に指定された面積約3.4haのミズゴケやヨシ類を主体とした三河地方最大の中間湿原である。現在では湿原の周辺は水田や牧場などに整備されているが、山麓の所々にはまだ往時の面影を残した小規模の湿地が散在している。

筆者はこの「長ノ山湿原」の指定地域の周辺で、若干のコメツキムシを採集したのでここに記録する。本文を草するにあたり、この調査に同行して支援をしていただいた山崎隆弘氏に感謝の意を表す。なお、採集者は大平本人である。

## 種の目録

1. *Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus* (Motschulsky, 1861) サビキコリ

標本: 3♂♂, 12-V-04.

各地に普通によく知られた種である。

2. *Limonicus vittatus* (Candèze, 1873) タテスジカネコメツキ

標本: 2♀♀, 12-V-04.

作手村からは大平(1990)が高里から記録している。体長は9mm内外。上翅の黄縦斑は雌では明瞭に現れるが、この個体もよく現れていた。

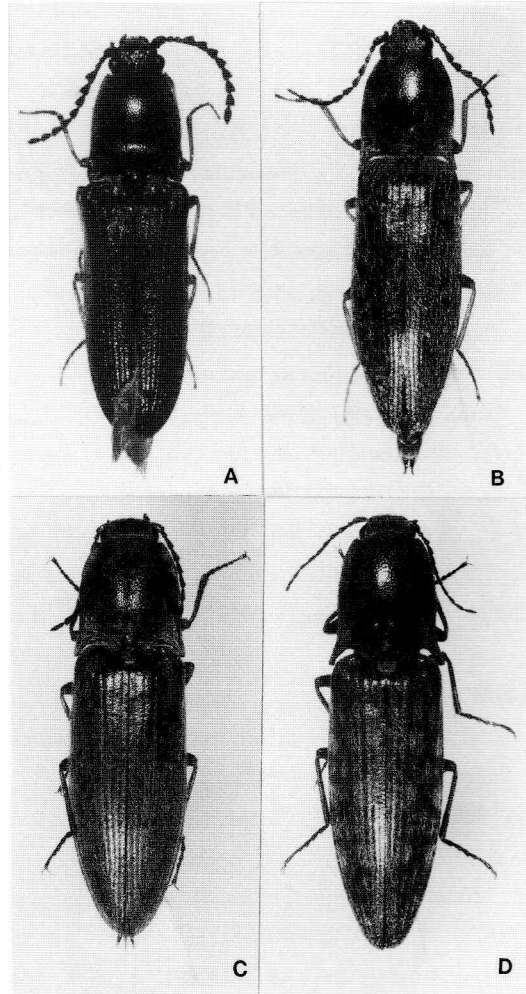
3. *Limonius approximans* (Lewis, 1894) キアシヒメカネコメツキ (図A)

標本: 1♀, 29-V-04.

体長は7mm内外。体は黒色で真鍮色の金属光沢を有し、触角は黒色で肢は黄褐色(腿節は暗褐色)である。従来は愛知県では北設楽地方に分布が知られていたが、作手村からはこれが最初の記録である。

4. *Pristilophus onerosus* (Lewis, 1894) トラフコメツキ

標本: 1♂, 12-V-04.



各地に分布しているが個体数は少ない。作手村からはこれが最初の記録である。

5. *Actenicerus aerosus aerosus* (Lewis, 1879) ヘリアカシモフリコメツキ (図B)

標本: 3♂♂2♀♀, 12-V-04; 1♂3♀♀, 29-V-04.

体長は9~10mm内外の小形の種で、上翅は一樣に灰黄色毛を生じ、触角は黒褐色で肢は黄褐色である。雌の上翅の側縁は黄橙色を呈する。作手

村からは大平 (1990, 2004) が記録している。幼虫が湿地依存性であることはすでに知られている。

6. *Actenicerus suzukii suzukii* (Miwa, 1928) スズキシモフリコメツキ (図C)

標本: 2♂♂, 12-V-04.

前種と同様に湿地に依存して分布しているため、分布が連続してなく、個体数は前種に比べて少ない。体長は11~12mm内外。前胸背板は点刻を密に生じるため光沢は鈍い。また、上翅が暗褐色を呈するので、類似種とは識別できる。作手村からはこれが最初の記録である。

7. *Actenicerus orientalis* (Candèze, 1869) オオシモフリコメツキ (図D)

標本: 3♂♂, 12-V-04.

山林性で、前種に比して分布も広い。体長は14~15mm内外で細長い。前胸背板の正中部の後半は浅く凹溝を印し、上翅は褐色と灰色の毛がまだら状に生じる。作手村からは本宮山(作手村側?)から記録されている。

8. *Ectinus sericeus sericeus* (Candèze, 1878) カバイロコメツキ

標本: 5♂♂ 6♀♀, 12-V-04.

作手村には各地に分布しているが、この湿原周

辺の個体はやや小形のが多い。多分幼虫が痩せている湿地内に生息しているためではないかと思われる。

9. *Melanotus (Melanotus) correctus correctus* Candèze, 1865 ヒラタクロクシコメツキ

標本: 9♂♂ 4♀♀, 12-V-04.

各地の山林に広く分布する種である。作手村では広く分布している。

10. *Melanotus (Melanotus) senilis senilis* Candèze, 1865 クロクシコメツキ

標本: 1♂, 19-V-04.

畑地に広く分布する種である。普通種であるがこの湿地周辺では少ない。

引用文献

大平仁夫, 1984. 松野更一氏が採集した三河地方のコメツキムシについて。鳳来寺山自然科学博物館館報, (14): 1-12.  
———, 1990. 愛知県南設楽郡作手村のコメツキムシ。三河の昆虫, (37): 277-280.  
———, 2004. 三河地方から採集されるコメツキムシについて (23)。虫譜, 42 (2): 13-14.

## 三河地方でウメチビタムシを採集

城 殿 浩

筆者は、愛知県三河地方において、愛知県内でも採集記録のあまりないウメチビタムシ *Trachys inconspicua* E. SAUNDRERSを数ヶ所で採集することが出来たのでここに報告する。

- 2exs: 岡崎市奥殿町, 28. IX. 2003.
- 2exs: 豊田市上高町, 30. IX. 2003.
- 2exs: 額田町鍛埜, 30. IX. 2003.

いづれも、ウメより得られた。

参考文献

愛知県農地林務部自然保護課 (1990) 愛知県の昆虫 (上)

# 足助町でのナガサキアゲハ採集記録2例

寺下正清

ナガサキアゲハは暖地に棲息する種類で、三河の山間部では確認・採集は不可能であろうという先入観があった。ところが、温暖化の影響であろうか矢作川の支流である巴川沿いで思いもよらなかったナガサキアゲハに出会った。

「三河の昆虫」No.51の報告・コラムを拝見し、当種の分布を把握するためにも参考になれば幸いと思い短報として報告する。

## 1) 第1例(ナガサキアゲハ1♂)

採集地 足助町:香嵐溪(三州足助屋敷前広場)

採集年月日 27-IX-2003

採集者 宇野総一(足助町田町)、標本は同氏所蔵

「昆虫教室」は足助町内での採集活動と標本づくりを重視して、隔週の土曜日に実施している。当日の目的地は飯盛山であり、吹き上げのアゲハチョウの採集をめざした。山頂付近はモンキアゲハがよく採集できる場所であるが、成果を得ることはできなかった。

下山し、三州足助屋敷前の広場で昼食をしている時に黒っぽいアゲハチョウが飛翔してきた。常に手助けしていただいている宇野総一父子がめざ



図1 「広報あすけ」に掲載された本種の記事

とく追いかけ、ネットに収めた。クロアゲハと思いつつ観察すると、ナガサキアゲハの雄であった。東加茂郡内はもとより足助町内では初見と思われる。

## 2) 第2例(ナガサキアゲハ1♀)

採集地 足助町大字則定(則定小学校集会室内)

採集年月日 10-VII-2004

採集者 藤嶋力央(則定小学校長)、標本は筆者所蔵

則定小学校の依頼で、採集ネットや展翅用具を持参して昆虫にかかわる話を全校児童対象に行っていた。話の途中で黒っぽいアゲハチョウが集会室に舞い込んできた。クロカカラスアゲハだろうと思いつつ話を続けていた。機転をきかして藤嶋校長が筆者のネットを手にして採集し、手渡してくれた。思いがけないことに傷みはあるもののナガサキアゲハの雌であった。

足助町内には、柑橘類であるユズ・キンカン・ミカンの木が点在している。ナガサキアゲハの定着が期待される出来事であった。

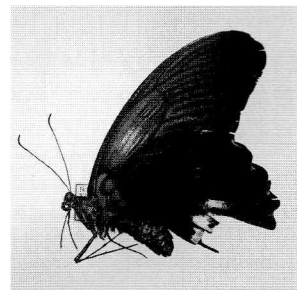


図2 則定小集会室に飛び込んできた本種の雌

## 参考文献

加藤 忠和(2004) 西尾市伊藤町で、ウスイロコノマチヨウ・ナガサキアゲハ・クロコノマチヨウを採集、三河の昆虫No.51

大平 仁夫(2004) ナガサキアゲハ岡崎市に分布、同上

高橋匡司他(2001) 旭町のチョウ類、旭町の昆虫 財団

法人旭高原自然活用村協会

町誌編集委員会

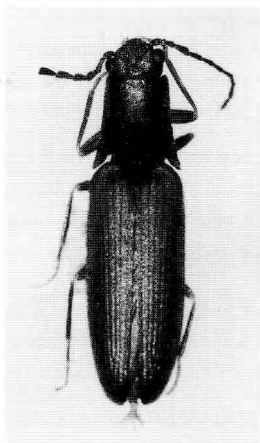
高橋 昭他 (1989) (愛知県の) チョウ類、愛知県の昆虫

(下) 愛知県自然保護課編

三津井 宏 (1972) 足助の自然 (足助町史資料 5)、足助

## ヒメホソツヤハダコメツキ茶臼山に分布

大 平 仁 夫



ヒメホソツヤハダコメツキ

ヒメホソツヤハダコメツキ *Athousius obakoensis* Kishii, 1976は、図示したような体長 8-9 mm内外、細長くてやや扁平状をした種である。体は暗褐色で光沢は鈍い。

本種は最初に奈良県伯母子岳 (Obakodake) (標高1,344m) で採集された1雄個体に基づいて新種として

記載された種である。原記載以降では主として奈良県と和歌山県で記録されており、この地方では岐阜県と長野県からそれぞれ1例の記録があるだけである。

愛知県では、Ôhira (1976) が段戸裏谷で採集の2雄と木曾駒ヶ岳産の1雄個体に基づいて *Gly-*

*pathous yukikoa*と命名した新種を記載したが、上記種の発表が1月で後種の発表が3月だったので、現在では上記種のシノニムとされている。

このたび、山崎隆弘氏が茶臼山で採集した1雄個体を検したのでここに記録する。本種は愛知県からは3個体目になるきわめて珍しい種である。愛知県産の雌を探したいと思っているが、生態は不明である。終わりに、この貴重な標本を頂いた山崎氏に御礼申しあげる。

調査標本：1♂，愛知県豊根村茶臼山，1-VI-1991，山崎隆弘 (図示した個体)。

### 引用文献

Ôhira H., 1976. New or Little-known Elateridae (Coleoptera) from Japan, XX. Trans. Shikoku ent. Soc., 13 (1-2) : 47-50.

### ☆三河昆虫研究会への入会案内☆

三河昆虫研究会は、会報「三河の昆虫」を年1回と連絡紙の「三河の昆虫 (通信)」を複数回発行し、地域の昆虫相の解明につとめています。入会希望のかたは、年会費3,000円を添えて下記あて申し込みください。

## ハネビロトンボ2種を石垣島で採集

鈴木 栄 二

石垣島・西表島に2004年7月30日から8月1日まで、観光目的で訪れた。その際、立ち寄った石垣市明石地区の細い流でハネビロトンボ属Genus *Tramea* のヒメハネビロトンボ *Tramea transmarina yayeyamana* とナンヨウヒメハネビロトンボ *T. t. propinqua* を採集したので報告する。

ヒメハネビロトンボ (図A)

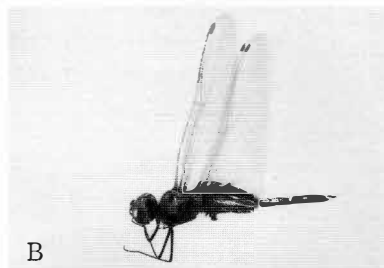
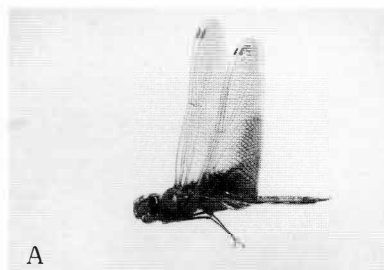
*Tramea transmarina yayeyamana*

1♂ 沖縄県石垣市明石, 31-VII-2004.

ナンヨウヒメハネビロトンボ (図B)

*T. t. propinqua*

2♂ 沖縄県石垣市明石, 31-VII-2004.



### 参考文献

発表を勧めてくださった大平仁夫先生に謝意を表す。

井上清 浜田康 (1985) 日本産トンボ大図鑑.

## 愛知県でシバオサゾウムシを採集

城 殿 浩

筆者は、愛知県で未記録と思われる、シバオサゾウムシ *Sphenophorus venatus vestitus* CHITTENDEN を採集することが出来たのでここに報告する。

lexs: 豊田市竜宮町, 28. IX. 2003.

シバオサゾウムシは北アメリカからの外来種で、成虫・幼虫ともシバ類の茎と根を加害する害

虫で、庭園やゴルフ場のシバに被害が出ている。

### 参考文献

愛知県農地林務部自然保護課 (1990) 愛知県の昆虫 (上)